

## 平成25年度 倉吉東高等学校 第三者評価 評価書

### 【講評】

倉吉東高校は、鳥取県中部地区の進学校として、中長期目標を『倉吉東高のかたち』（倉吉東高の学校目標と教育活動内容を示した概念図）の理想に沿った様々な教育活動を充実発展させるとともに、主体的な学習者・21世紀の日本を支え、世界をリードする高い志を持った人材の育成をめざす」と定め、全教職員が連携協力して事に当たっている。

特に、学校長のリーダーシップのもと、学校ビジョンと連携した数多くのユニークな企画を提出している。こうした「攻めの姿勢」が生徒にも波及し、生徒の主体性の育成につながることを期待する。

平成24年度に分掌組織を大幅に再編し、「キャリア形成部」「活動創成部」「企画推進部」「連携発信部」の4部構成とした。これら各部が重点目標を設定し、PDCAサイクルに基づき組織的に教育活動を展開している。学年団との連携・協働にまだ課題を残すが、新しい分掌は概ねよく機能しており、重点目標として掲げる「主体的学習者の育成」「キャリア教育の充実」「積極的な活動の創成」「広報連携力の強化」「定時制教育の充実」は成果をあげているものと認められる。

以下は、委員会として評価し、今後も継続・発展していただきたい主な事項である。

- ① 主体的な学習者の育成を目指し、授業にアクティブラーニング（能動的学習）の手法を取り入れている点は大いに評価される。アクティブラーニングの研究推進を重点目標とし、多角的な研修を行っている。また、定時制では生徒の実態に配慮し、同一科目を複数年の生徒が受講できるよう、教育課程を弾力的に運用している。
- ② 上級生をアドバイスや相談に応じるチューターとして下級生とふれあえるようにし、生徒同士の縦横の絆を育むシステムを活用している。また、「国際高校生フォーラム」（国外や県内外の高校生が現代社会の課題について提言を行う）を主催し、生徒の能力向上・成長に資するようにしている。
- ③ 1年次から進路指導を行っているが、単なる志望校調査ではなく、生徒自身が目標をもって学校生活を送れるような指導をしている。また、定時制では、生徒の家庭・職場を訪問して生徒の状況把握に努めている。
- ④ 生徒の人生観・職業観を養うため、保護者を講師とする企画「大人（おせ）の一言」や「OB講演会」、卒業生との座談会など、社会人としての資質や、学びと社会とのつながりを理解する機会を豊富に設けている。
- ⑤ 学校評価委員会を年3回（5月、9月、2月）開催し、より綿密な改善を行っている。
- ⑥ 学校として数多くの独自事業を企画し、県下でもトップクラスの学校裁量予算を獲得している。こうした「攻めの姿勢」を今後とも継続し、よりよい教育システムの構築に活かしていくことを期待する。

一方、以下は、今後改善していただきたい主な事項である。

- ① 社会人講師の活用がやや限定的である。外部人材の活用によって教育効果を高められる部分がないか、引き続き検討が必要である。
- ② 授業評価アンケートの分析から、生徒の学力の二極分化が認められるため、対応策を検討することが必要である。また、数値が低い項目についての改善策を検討することも必要である。
- ③ 環境教育について、目標を十分には達成できていないところが認められるので、今後も継続的に教育を推進する必要がある。